

ひらやま 八号

《一学期始業式・児童代表発表》

一学年の五年意
一組 久保瑛太

日くも期み
をはつが長
すむ、てすおく
か大二。わて、
えき学みり
まな期な、楽
し三をさ今し
たつむん日く
のかはかて、
で決え、ら
、意まどい暑
しをしんよか
よもたないつ
うつか目よた
かて。標二夏
い今ぼを学休

や図二 習しへをきた見りく問ば ん動り体かつ要ツスリつを
イ書と三をもるしまら直考こ題くニぎ会組育らみなクト、れ高一
ベ委でつがへとてす先しえとをのつながんのぼかこでも体てめつ
ン員す目んっ字も。生をてが読苦目どあだ時くさとしB力、る目
ト会。はばてもら毎やす、苦ん手はにるり間はねをたかのぼこは、
、にぼ、ついてつ日友る最手だな、ものしに、がか。ら低くと
本入く委てるいて、達こなり教全でた目外大ん体C下はで体
のりは員いのねい宿にとでの、科力力、い標で切が力にを、す力
貸ま、会きていま題きや、で工は高ですでを体だえを落感外。を
しし本活ま、にすはく、あ、夫算めゆんて。つ動思時めてま遊年け
出たが動す今な。父よ分まし数るばの二てかいにるしすぶがて
し。好を。後り以にうかずてでニギは問すと、り競学学しま、たま。こ上運
な本きが も、前チにらまじ題。ま技期習たす毎めい体とが動
どのなん 家やにエしなせつを文すやはにり。日にシ力がる能
、整のば 庭りくつてかんくと章。え運取、だの必ヨテへに力
樂理でる 学直らクいっ。

わたらしは、もし一つまほうが使える
なら、しゆんかんいどうできるよ

【宮崎日日新聞『若い日』
令和六年七月三十一日】

た いやす にのた むはよて す
いいさん。ななりほれねう、シ
でつわとそりり、人かでたなーヤ
すかついれたたわをにうりとつチ
。てうはいいいたこもごでこ目の
シも声、もなしう船くきろはい
やらがねのとはげのこるで、い
チえかこがの思、き近とかすとと
やるわがいシしくでら。てこ
ねかいすもまやなにすでニもろ
こらく。うしチい来。すつ強は、
にてねーた。 三目く
なす、こつ。 三はて三
つ。つはあ つ、さつ
て い、り 目といあ
み つニま は、びきつ

シヤチヤ
ねこに
三年一組
一木 愛美

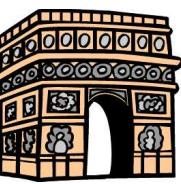
〔始業式 令和六年八月二十七日〕

校したりてんらしく
生まさまほのとく
活しいすし人い活
をた。°のいたう動
お。°でかち理し
くニ以、らに由て
り学上皆で読もい
た期、さす書あま
いも三ん。°のりす。
で元つもニ樂ま
す氣の本学しす本
。に目を期さがが
樂標読もを、好
しをんが味たき
く發でんわくだ
学表くばつさか



【夕刊ティリー】
令和六年八月十二日

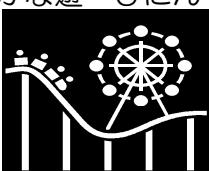
を すのなはすこボんぼっ しる いといふ
探休る旅るもごとジとくて世いづのぼま世考ことほ
す日だをよっくがアベはみ界んながくし界えと思く
のにけしうと楽あ旅ト、たーじらとはたーてをいは
も、でたな最しり行ナおい周 やジて、周い探ま休
樂人とい世高く、にムばなのなエもジ
し生てな界なてそ行とああ旅いツ好エ
いでもとこ思、とコで、コ
なや思、とコで、コ
と思、とコで、コ
てくま
ま
いみく
また
ま
いこ
と
想
像



人生でやつてみたいこと
六年二組 黒田 雄心

〔宮崎日日新聞　令和六年八月八日〕

でけま す所園 になか う
すをつもぐに地た行れんなに
ぐよたうにおにとけばいぜな
にび人一食い行えた、どかり
つにがつべしけばり色うとた
れ行いのにいた、すいがいい
てけた理行食り日るろでうで
行たと由けば、本かなきとす。
けりきはる物色全ら所る
る、に、かない国でによし
かび、家らどろのす遊うゆ
らよすぞでがな遊。びにん
でうぐくす。
すいにや、
んた
ますこ



宮日子ども新聞『みんなの作品』



〔宮崎田田新聞〔若い目〕
令和六年八月十二日〕

たる な人め
いがをいくにてとし
で過なじす知いかか
すごくめこらるでし
。ししやとせ人
やてけがるにま私
す、んでなはすは
い今かきど言。大
とよ、るのえだ人
こり人と方なかの
ろ楽と思法いら人
にし人いで人、に
しくとまいで直知
てトすじも接ら
いみラブ。め、いせ
きんづ を大じる

た止こ分い学 をす
°めにかる習道考れ
るいりのを徳えら
こたまもしのまを
とらしいた授しな
は、たじ時業たく
で直 °めいで、
き接だて
ないけい止い
いじどるめじ
なめ
とてもとに
と思いし同だつ
いる私じまい
ま人がだつての
ましをそとての

いじめをなくす
六年一組
白川
陽莉

五年一組 寺田 朝陽